

VOC自主的取組(状況報告)

- ・ 団体名 **日本建材・住宅設備産業協会**
- ・ 補足範囲
 - 業種 (代表的な業種) 24 金属製品製造業
①金属製品製造業、②パルプ・紙・紙加工品製造業、③窯業・土石製品製造業
 - 加盟率 約90% (①85%(サッシ業界内)、②95%(繊維板パーティクルボード製造業界内)、③100%(窯業系サイディング、火山性ガラス、ロックウール保温材製造業界内))
 - 補足率 約86% (業界団体内の自主行動計画参加企業の出荷率)
- ・ 主な排出源
 - 塗装 ・サッシの塗装工程、窯業外装材の塗装工程
 - 接着 ・繊維板、パーティクルボードの接着工程、ロックウール保温材のフォーミング工程、ドア等のラッピング接着工程
 - 洗浄 ・ウレタン注入機の洗浄
- ・ 除外・すそ切りの考え方
 - 対象企業 会員団体中、①VOCを排出していない、②他団体の自主行動計画に参加する、③自団体で実施するとして企業・団体を除く5団体を対象
 - 対象物質 PRTR対象物質のうち排出量の割合の上位を占める物質を対象団体各々が選定した

排出状況 (単位:トン)

	【12年度】	【17年度】	【22年度】	【23年度】	【24年度】	【25年度】	【26年度】	【27年度】	【28年度】
■ 全国									
使用量 ^{※1}	10,109	7,639	3,876	3,344	2,383	2,521	2,424	2,137	1,783
排出量	8,031	6,059	2,208	1,922	1,657	1,787	1,842	1,548	1,293
(増減率 ^{※2})	-	(▲25%)	(▲73%)	(▲76%)	(▲79%)	(▲78%)	(▲77%)	(▲81%)	(▲84%)
うち法規制対象施設	-	-	-	-	-	-	-	-	0
(増減率 ^{※2})	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加企業数	-	-	-	37	37	36	35	33	33
(参考)地域別排出量									
■ 対策地域計	3,682	3,283	1,586	1,252	980	1,114	967	771	532
(対全国比)	(46%)	(54%)	(72%)	(65%)	(59%)	(62%)	(52%)	(50%)	(41%)
関東地域 ^{※3}	1,069	695	1,181	811	547	521	433	417	361
関西地域 ^{※4}	194	197	125	144	165	174	134	115	128
中部地域 ^{※5}	2,419	2,391	280	297	268	419	400	239	43

※1 使用量とは、燃料として使用したものを除く。

※2 増減率(%) = $\frac{\text{当該年度の排出量} - \text{12年度の排出量}}{\text{12年度の排出量}}$

※3 関東地域: 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

※4 関西地域: 大阪府、兵庫県

※5 中部地域: 愛知県、三重県

(注) 物質別の排出量を推計している場合は、別紙に、物質別の排出量を記入してください。

■ 使用量の推計方法

VOC使用量は、各業界各社の購入実績や施設ごとの使用実績より算出した。

■ 排出量の推計方法

各業界毎に算出方法が違うため、過去の自主行動計画報告書を参照してください。

■ 参加企業数の増減理由

なし

こ 排出抑制に貢献する対策等

■ 対策及びその効果、コスト

(作業方法の改善等)

- ・塗装方法の改善(塗装ライン設備更新)
- ・接着施設の温度管理の徹底
- ・吐出器や配管の改善による歩留まり向上
- ・キャッチャー剤の導入

(原材料の転換・削減)

- ・溶剤系塗料から水系塗料への切換え
- ・洗浄剤の代替えや使用量削減
- ・ラッピング用接着剤のホットメルト等への切換えおよびジクロロメタンを含まないものに代替化
- ・接着力向上による使用料の削減

(設備導入・改良等)

- ・VOC除去装置の導入

(その他の対策)

- ・F☆☆☆☆製品の生産比率を高める

■ 自己評価

(取組の目指すべき方向性)

- ・今まで取り組んできた内容を、継続実施するほか、設備改善の際には、排出状況の改善にも資する様配慮するなど努力する。
- ・平成32年度の目標値として、少なくとも平成22年度比で悪化しないよう取り組んで行く。

(自己評価)

平成28年度の排出量は平成22年度から更に、41%減となった。特に窯業外装が中部地区で溶剤系塗料から水性塗料へ切り替えを実施、昨年度対比で大幅な削減を行って、排出抑制に貢献したことが大きい。塗料の塗着、塗布の向上による塗料使用原単位の低減化や水性化設備改造による水系塗料への切り替え・塗装設備の塗装効率改善や設備の燃料転換等・建材のF☆☆☆☆生産比率向上などの取組が確実に行われ、目指す方向性について充分対応できる結果となった。

こ その他

(日本窯業外装材協会)

- ・中部地区で溶剤系塗料から水性塗料へ切り替えを実施、昨年度対比、大幅な削減を行い、排出抑制に貢献

(日本サッシ協会)

- ・業界として、ラッピング用接着剤にジクロロメタンを含まないものに代替化を進めている。

(日本繊維板工業会)

- ・会員各社から、ホルムアルデヒド排出量原単位の低減に向けた方策の提出がある。
- ・ホルムアルデヒド放散等級自主表示制度を運営している。

(ロックウール工業会)

- ・ロックウール繊維の成形品を保つために使用されるホルムアルデヒド含有のフェノール樹脂をノンホルムアルデヒド樹脂に変更することを検討している。

※・法的対象施設として該当するものがないため、記載なし。